

「農薬と食の安全・信頼—Q&Aから農薬と食の安全性を科学的に考える—」

本書は農薬が持つ多面的な側面のうち、主に「人と健康とのかわり」に焦点を当てた。著者が取り組んできた農薬に関する講演や講義で、実際に一般消費者や学生から寄せられた農薬に対する素朴な質問と、著者の答えをQ&A形式でまず各章の始めに置いた。続く本文を読み進めてさらに深い理解が得られるように構成してある。

農薬は、どのような安全性試験を経て農薬登録され、適正使用されているのかという基本的な内容から、残留農薬のヒトに対する健康影響、リスクコミュニケーションの取り組みなどに至るまでを詳述している。

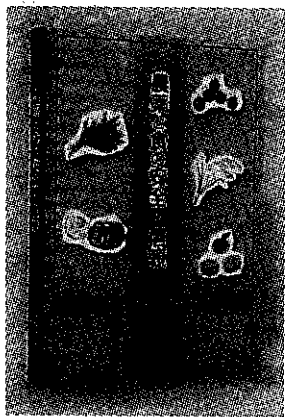
著者の梅津憲治氏

「人と健康とのかわり」に焦点

(徳島大学産学官連携推進部 客員教授)は大塚化学で専務として農薬肥料部長や経営企画室長などを歴任、そのかわり、日本農薬学会会長(2005、2007年)を務めるなど農薬の研究開発の発展に長年尽力してきた。発行は日本植物防疫協会。

一般消費者や学生はもとより、農薬の研究開発から試験研究機関や技術普及、流通・卸、農業生産法人など植物防疫の関係者にとっても必携の1冊と言える。

(A5判、288ページ、本体価格2800円十税、日本植物防疫協会刊、東京都北区中里2-28-10、電話03-5980-2183)



梅津憲治 著